

# 美術工芸館 Newsletter

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館

Tohoku Fukushi University  
Serizawa Keisuke Art and Craft Museum  
ニュースレター 2021年6月 Vol.1

## 〈こんにちは。 美術工芸館です〉

新学期がスタートして2か月半。新型コロナウイルスの影響で不自由な日々が続いていますが、当館も、予防対策を徹底したうえで、授業利用のみ再開しました。このような状況から、これまで以上に“美術工芸館の今”をお届けしたいと考え、ニュースレターの刊行を始めました。創刊号は自己紹介も兼ねて「美術工芸館ってどこにあるの？ 芹沢銈介…どんな人？」といったテーマでお届けします。どうぞお楽しみください！

さて、芹沢銈介美術工芸館は1989（平成元）年6月23日の開館から32周年を迎えました。所蔵品は、芹沢銈介関連作品や芹沢の収集品、開館後に大学が収集した資料など約1万5千点にのぼり、年2回の展覧会で紹介をしています。美術工芸館があるのは国見キャンパス2号館の5・6階。1階の入口には目印の石碑があるので、ぜひ探してみてください。



2号館1階前にある石碑

デザインは芹沢の弟子・柚木沙弥郎氏



## 芹沢さんってどんなひと？

芹沢銈介（せりざわ・けいすけ 1895-1984）は静岡市生まれ。実家は染め物を取りあつかう静岡有数の商家で、幼少から絵や書道といった芸事に親しみました。

1956（昭和31）年には「<sup>かたえぞめ</sup>型絵染」の人間国宝となり、晩年は多くの弟子達に指導・制作を行う日々を過ごしていました。そんな芹沢の染色工房が最もにぎわいを見せたのは、銈介の誕生日（5/13）だったとか。左の写真は、86歳の誕生日を迎えた芹沢。

お披露目ではお気に入りの収集品「舞鶴文素襖」<sup>まおう</sup>を晴れ着にして、祝ってくれた人を楽しませたそうです。

Topics  
01

# 美術工芸館の歩き方

当館に来たことがある方もまだの方にも、今後役に立つご利用ガイドを作りました。基本情報はもちろん意外な見どころまでコンパクトにご紹介。必読です。

※2021年6月現在は授業利用のみ可能

## 5階

### 受付・SHOP

入館したらまずはコチラに。  
学生証はお忘れなく！  
オリジナルグッズも販売中。  
気軽にお声がけください。

### オープンスペース

仙台の街を一望できるリラックス空間。  
太平洋や八木山の観覧車、太白山...  
どこまで見えるでしょう？



### 展示室 C

グループワークにぴったりな巨大テーブルを併設。3つに分かれている天板、元は1本の杉から作られている一枚板です。樹齢300年超えの古木、木目も美しい！



### 展示室 D

自習机を併設。古き良きレトロなテーブルセットです。居心地の良さでまぶたが重くならないように！



当館を象徴する壮麗なステンドグラス。炎や蓮といった芹沢の模様がデザインされています。

### ステンドグラス

### レクチャーブース

リエゾン1の見学では館の概要や利用案内を動画で紹介中。近くには染色の技法資料「型紙」を展示。

### 展示室 A・B

ずらりと並ぶ作品、圧巻の芹沢ワールド！展示ステージは一番長い場所でなんと約10m。大迫力です。

階段踊り場に飾られた写真。

中央には仕事中の芹沢銈介のすがたが。近くの展示ケースでは愛用していた染め道具も紹介中。ちなみにここ、ステンドグラスを間近で見られるスポット。色とりどりのガラスがきらめいています！

## 6階

### 芹沢銈介の応接間

東京の蒲田にあった自宅の応接間を再現。芹沢は来訪者の好みに合わせてよく模様替えをしていたそうです。夜通しの作業になることもあったとか。



応接間の再現コーナー

現在は芹沢が集めた木工品を中心に展示紹介しています

## 開催中

6階展示室  
芹沢銈介作品  
「芹沢銈介の世界 いろは編」

5階展示室  
芹沢銈介コレクション  
「とつくにのアイコン・日本の絵馬」

この展示は今後「おうちで美術工芸館」で動画配信予定です。



当館 HP

← QRコードは  
コチラ

News  
01

## 「ふむふむ...」「なるほど！」発見いっぱいの Web コンテンツ

当館 HP 内に「おうちで美術工芸館」を開設しました。動画による展示紹介、家に居ながら楽しめるワークショップやワークシートなど、随時ウェブコンテンツを更新しています。ぜひ一度ご覧ください。

## Topics 02

### 芹沢銈介 作品紹介

木綿に染められた濃紺ののれん。白く抜かれた丸窓の中には「風」という文字が配されています。まるで後方から吹いてきた風の様子を文字の形にしてしまったかのように。このような文字を意匠化した芹沢作品を「文字絵」と呼んでいます。

「風の字のれん」は 62 歳の時の作品。藍の濃淡で染め分けている配色が、一層清々しさを感じさせます。



「風の字のれん」 1957 年

## Topics 03

### 美術工芸館 初代館長について

当館は平成元年という区切りの良い年に開館。初代館長に就任されたのは、本学教授であった芹沢長介氏 [1919-2006]。考古学がご専門。日本の北から南まで発掘現場にたずさわった先生は、多くありません。特に有名なのは「岩宿遺跡」です。群馬県、岩宿で発見された石器は、日本考古学の通説を覆す大発見の出来事でした。ロマンが

ありますね！ところで、その長介教授とは芹沢銈介の長男。本学に、芹沢作品とコレクションを寄贈して下さった先生です。時々パイプをくゆらせていたお姿が印象的でした。日本人で似合う方はなかなかいませんね。さて、この紙面では紹介しきれませんので、芹沢長介氏にまつわるエッセイ「ダンヒルのパイプ」を恵子夫人(当館顧問)に執筆していただきました。当館HPにて紹介しています。



芹沢長介 初代館長



当館 HP

QRコードはコチラ

